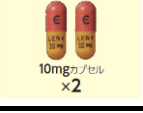


ID:	=患者情報!B1			( レンビマ単独 [レンパチニブ] ) 療法			施行日	クール	
患者氏名	=患者情報!B2		殿						
年齢 性別	=患者情報!B6	=患者情報!B7	入院/外来		入力日	年	月	日	
疾患名					開始日	年	月	日	
クール	連日投与				診療科				
備考	分化型甲状腺癌の場合:放射性ヨウ素治療抵抗性患者が対象(治療歴のない患者は対象外となる)				医師名				
適応基準	<input checked="" type="checkbox"/> 分化癌(乳頭癌・濾胞癌・Hurthle細胞癌・低分化癌) <input checked="" type="checkbox"/> 髄腺癌 <input checked="" type="checkbox"/> 未分化癌 <input type="checkbox"/> 術前 <input type="checkbox"/> 術後 <input checked="" type="checkbox"/> 進行 <input checked="" type="checkbox"/> 再発 <input type="checkbox"/> 1st Line <input type="checkbox"/> 2nd Line <input type="checkbox"/> 3rd Line以降				告知の有無	P S	同意書取得	<input type="checkbox"/> 済	
		身長		cm	体重		kg	体面積	0.00 m <sup>2</sup>
重要	B型肝炎の再活性化(de novo B型肝炎)対策として、右記の検査が未実施の場合は、全例スクリーニング対象となります。化学療法開始前or初回投与時に測定して下さい。						<input type="checkbox"/> HBs抗原 <input type="checkbox"/> HBs抗体 <input type="checkbox"/> HBe抗体		
	※詳細については、『化学療法により発生するB型肝炎対策～浦添総合病院バージョン～』をご参照下さい。								
レンビマCapは当院未採用薬のため、「緊急医薬品使用届」の提出が別途必要です。									
外来化療加算	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		オープンドラッグ指定のため、症例が無い限り卸問屋に在庫を備蓄させることができません。したがって、使用に際しては、連絡を頂いてから1~2週間かかります。			製薬会社へのFAX登録 (申請医師にて対応) ※事後登録は不可		<input type="checkbox"/> 済	
レジメン内容									
該当する内容に <input checked="" type="checkbox"/> を入れて下さい。	<input type="checkbox"/>	通常量	レンビマCap [レンパチニブ]	1日 1回	1回 24 mg				
	<input type="checkbox"/>	1段階減量	レンビマCap [レンパチニブ]	1日 1回	1回 20 mg				
	<input type="checkbox"/>	2段階減量	レンビマCap [レンパチニブ]	1日 1回	1回 14 mg				
	<input type="checkbox"/>	3段階減量	レンビマCap [レンパチニブ]	1日 1回	1回 10 mg				
	<input type="checkbox"/>	4段階減量	レンビマCap [レンパチニブ]	1日 1回	1回 8 mg				
	<input type="checkbox"/>	5段階減量	レンビマCap [レンパチニブ]	1日 1回	1回 4 mg				
<b>【重要: 薬剤師へ】</b> 1. 処方医登録状況を確認して下さい。 2. 使用予定症例登録票の結果報告(製薬会社よりFAX返信)を必ず確認して下さい。 3. 「処方確認シート」および「服用量チェックシート」に必要事項を記入の上、患者へ交付して下さい。									
注意: 患者へは、以下の項目を指導して下さい。 ①絶対に紛失ないように保管すること、 ②院外薬局へは毎回提示すること									
注意事項など							確認者	監査者	
内服・外用処方にて手足症候群予防対策をお願いします。 (1) ビドキサル錠(10) 3~6錠/日, (2) 保湿剤(ヒルドイドなど)									
休薬・減量・中止基準	副作用	高血圧	収縮期血圧140mmHg以上又は拡張期血圧90mmHg以上のとき 降圧治療にも係らず、収縮期血圧160mmHg以上又は拡張期血圧100mmHg以上のとき	本剤の投与を継続し、降圧剤の投与を行う。 収縮期血圧150mmHg以下及び拡張期血圧95mmHg以下になるまで本剤を休薬し、降圧剤による治療を行う。 本剤の投与を再開する場合、投与量を1段階減量する。					
		その他の副作用	Grade 4の副作用が発現した場合 忍容性がないGrade 2又はGrade 3の副作用が発現した場合 Grade 4の副作用が発現した場合(生命を脅かさない臨床検査値異常の場合は、Grade 3の副作用と同じ処置とする)	本剤の投与を中止する。 本剤の投与開始前の状態又はGrade 1以下に回復するまで休薬する(悪心・嘔吐・下痢に対しては休薬の前に適切な処置を行い、コントロールできない場合に本剤を休薬すること)。 本剤の投与を再開する場合、1段階減量する。					